

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

外科研修報告記

千葉県がんセンター食道胃腸外科

平澤 壮一郎

まず、このような貴重な機会を与えてくださった日本臨床外科学会の皆様、受け入れてくださったがん研有明病院大腸外科部長の秋吉高志先生をはじめ、外科の先生、看護師、事務の皆様、快く送り出してくださいました千葉県がんセンター食道胃腸外科の先生方に深く感謝申し上げます。令和7年10月20日から10月31日までの2週間、日本臨床外科学会国内外科研修制度を利用し、がん研有明病院大腸外科で国内研修をさせていただきました。私は千葉大学大学院医学研究院先端応用外科の医局に所属しており、外科医として10年目を迎えます。今年度より千葉県がんセンターに赴任し、ロボット支援下の大腸癌手術の初執刀を経験しました。9月時点で約10例執刀を行いました。その難しさを痛感しておりました。そこで、全国でも有数の大腸癌症例数を誇るがん研有明病院で手術手技を学びたいと考え、今回の研修を希望いたしました。

初日、病院に到着すると、早速山口智弘先生がロボット支援下低位前方切除術・右半結腸切除術について、手術動画を交えながら懇切丁寧にご指導くださいました。手術場面ごとのコンセプト、術者と助手の展開方法、モノポーラーによる切離、止血方法等を詳細に解説していただきました。自身の執刀時に難渋した部分についても、一つ一つ親身に助言をいただきました。研修開始わずか1時間で、この研修に参加して本当によかったと実感しました。

この研修で特に印象に残った点を以下の3つに分けて報告いたします。①多様な卓越した手術手技、②ハイレベルなカンファレンス、③同世代外科医との出会い。

①多様な卓越した手術手技

がん研有明病院大腸外科には6名のスタッフの先生方が在籍され、それぞれ独自のコンセプトに基づいた卓越した手術手技を展開されていました。直腸癌手術を例に挙げると、秋吉高志先生は術者の左手の使い方、腸管の筋膜からの剥離に重きを置かれ、層をミリ単位で厳密に認識しながら驚異的なスピードで正確な剥離を行う姿は、まさに職人技でした。山口智弘先生は手術をいかに円滑に進めるかをシステムティックに整理され、各場面のコンセプトを明確に言語化してレジデントに指導されており、大変参考になりました。自施設でもすぐに実践したいと感じました。向井俊貴先生は優しい左手のタッチで一番見たい部分の剥離層をピンポイントで出し、軽やかに剥離しており、センス溢れる手術手技でした。「手術のコツは煩悩を捨てること」、参考にさせていただきます。松井信平先生、坂本貴志先生、野口竜剛先生の手術も適切かつ迅速で、とても勉強になりました。それぞれの先生の手技を私なりにPowerPointにまとめ、自施設スタッフと共有して今後の手術手技向上に活かしていく予定です。

②ハイレベルなカンファレンス

週2回の消化器外科での術前カンファレンス、週1回の大腸外科カンファレンスに参加しました。術前カンファレンスでは、多数の症例を抱えているため、重要事項が端的にPowerPointにまとめられており、レジデントの先生方が英語で発表されていました。質疑応答ができるよう、文献や自施設データも把握した上でカンファレンスに臨んでおり、手術や業務の後に作成していることも考えると、頭の上がらない思いでした。また、大腸外科カンファレンスでは他科との連携のもと、一人ひとりの患者に対して治療方針を多角的に検討しており、当院でもぜひ取り入れたいと感じました。

③同世代外科医との出会い

がん研有明病院大腸外科には11名のレジデントの先生が在籍され、大学医局出身の方、自ら希望して来られた方など多様な背景を持っていました。年齢層も20代後半から40代までと幅広く、私（35歳）はちょうど中間くらいとのことでした。そんなレジデントの先生方がスタッフの手術を学びに手術室に集まってきて、皆で層や手技について意見交換をしており、非常に刺激的でした。ともに大腸外科を頑張ろうと熱く語ることができる同世代が減っていると感じていた最中、こんなにも大腸外科に熱い先生たちがいるのかと胸が熱くなりました。そして今回、金沢大学消化器外科の齊藤浩志先生も1週間手術手技を学びにいらしていました。私と歳が近く、日中も夜も熱く大腸外科を語ることができ、素敵な出会いができ非常に感謝しております。

2週間の研修を終え、高度な手術手技を間近に学ぶことができ、私の手術手技向上に大いに役立つと思います。また、より良い治療を追求する熱い志を持つ先生方との出会いは、私のモチベーションを大きく高めてくれました。今回得た経験を糧に、千葉県消化器外科の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

最後になりますが、このような貴重な研修に私をご推薦くださいました、千葉県外科医会の松原久裕会長、鍋谷圭宏先生に心より御礼申し上げます。